## ＜大学生Ｎさんの意見表明＞

# 無限に広がる他の誰でもない自分自身の可能性に…

### はじめに：授業のなかで発信された、Ｎさんの意見表明

下記の意見表明は、愛知教育大学で2009年度開講していた前期授業「教育原論」（主に１年生対象、担当教員：山口正）の受講生であったＮさんが５月に担当教員に発信したものです。

その内容が他の受講生の学習を深めるものになると考え、６月８日の授業でこの意見を位置づけました。ちょうどその日は文部科学省から「教員養成課程認定実地視察」（大学評価）があり、私の授業が講義見学の対象に指定されていました。文科省の視察委員を前に、Ｎさん本人がともに学ぶ受講生に語りかけた姿は「教育」そのものでした。

山口 正より

＊＊＊

### 無限に広がる他の誰でもない自分自身の可能性に…　　Ｎ（愛教大学生）

この前の授業とても勉強になりました。

授業に限らず、色んな人と意見交流することは本当に大切なことだと思うので、とてもいい経験になりました。ほんの1年前の私なら、正直こんな風には到底思えていませんでした。この授業のおもしろさに気付くことができて、本当によかったです。

夜間学校のことに直接触れていない私の意見を、班を代表して発表していいものなのか正直あの時は分かりませんでした。しかし、どう感じたにしろ、班のみんなが私の意見に少しでも興味をもち班代表として認めてくれたこと。あの場では異質な私の意見を少しでも教室のみんなに聞いてもらえたこと、とても嬉しかったです。

夜間学校の実情に関して、私は間接的にしか触れたことがありません。しかし、まわりのみんながエスカレーター式に進学していく中、私1人そのエスカレーターを降りて大学を休学したこと。

そんな「みんなと違う」自分自身に対し、どこかで強いコンプレックスを抱き続けていたこと。

そんな弱い自分自身を守るため、心の奥のどこかで自分の殻に閉じこもってしまっていたこと。

そういう点では、夜間学校の子たちとどこか似た、いや、同じような経験を私はしてきたのかもしれません。

休学中バーテンダーとして働いていたと以前話しましたが、その時に私は自分の意思・意見・考えをもつことの大切さを知りました。それらがないと、お客さんと会話が成り立たないのです。

もちろん会話はできますが、全く中身の伴っていない、その場限りの会話しかできなかったのです。

「あんたはどう思う？」

「あんたは何がしたい？」

と、唐突に私の意見を求められる度、頭に何も思い浮かばない自分自身に気づきました。

にこにこ笑っているか、その場しのぎの曖昧な返事をするか…
はじめの頃、私はそう対応していました。いえ、正しくは、そう対応することしかできませんでした。自分の意見というものを、私はもっていなかったのです。

私は進学高校から国立大学（愛教大）へ進んできましたが、それまでは学歴や偏差値、学校の成績で周囲から評価されることが大半でした。
それに対し、「私」という人間そのものを評価されることは、本当に少なかった気がします。私は、そのような環境に慣れ過ぎてしまったのでしょう。自分の意思を伝える機会を、自分の考えをもつ機会を、知らず知らずのうちに自ら通り過ぎ逃してきたようです。

休学して大学を離れると、他人から「私」そのものを見られるようになりました。
学歴、偏差値、学校の成績。
それらは「私」を評価する対象には入りません。評価されるのは私自身でした。
しかし、「学生」という肩書・身分を取り払ったとき、からっぽな私には何も残りませんでした。
それは空虚な、まるで人形のようでした。

そんな自分に気付き、その後私は必死に「私」自身を取り戻そうと努力しました。
短い期間ではあったけれど、あの時があったから、私は今「私」そのものを他人に伝えることができるようになったのだと思います。
あの時があったから、自分の意思・意見・考えをもつ大切さを知り、それらを常に見つけていく姿勢を覚えたのだと、今は思うのです。

周りの意見に同調し、逆らわなければ、「学校」という狭い社会の中では生きていくことはできます。むしろ、そのような姿勢でいることの方が「学校」では有利でいられます。
でも、本当の広い社会に出れば、そんな姿勢は決して通用しません。

授業を受けているみんなは1年生で、私とは違い大学生活は始まったばかりです。
えらそうなことは何も言えませんが、教員を目指す目指さないに関わらず、どうか少しでも、みんなには自分の意見・意思・考えをもってもらいたい。
「いい子」から抜け出して、色んなまわり道や挫折を経験してほしい。
その経験から、学校の授業では教わらなかった様々なものを学んでほしい。
色んな人が社会にはいることを、色んな世界が世の中には存在することを、自分の五感を駆使して確かめてほしい。
そして、どうか、無限に広がる他の誰でもない自分自身の可能性に、どうか気付いてほしい。

この前の授業を受けてから、そんなことを考えていました。